

段々と気温が上がり、夏が近づいて参りました。梅雨時は中々外に出る機会もなく、室内で過ごされることが多いのではないのでしょうか。お部屋の中は出来ることなら物を減らしてすっきりした方が気持ち良く過ごせるものです。とはいえ、片付け物に重い腰を上げるのは意外に億劫おっくうなものです。

お釈迦様のことを伝えていとされる『スッタニパータ』という経典にこのような一節があります。

「古いものを喜んではならない。また新しいものに魅惑されてはならない。

滅びゆくものを悲しんではならない。妄執もうしゅうにとらわれてはならない。」

これは元々、偏った修行をしていてはならないという戒めの教えなのですが、ひるがえ翻って私たちの生活の有り様に照らしてみますと・・・、目に映る物を欲しがり、すぐに飽きてしまっは仕舞いこみ、勿体無くて捨てられず部屋はどんどん狭くなる、心の執着しゅうじゃく、つまり拘こりのすがたは、物という目に見える形となって日々私たちに訴えかけているのです。

今年の春はお引越しが大変だった方が大勢おられた事でしょう。曹洞宗の修行道場では、てんやく転役といつて所属の部署が変わると、やなぎごうり柳行李という一人で持てる四角い入れ物に荷物を詰め込んで肩に担いで引越しをするのですが、修行中は荷物も少なく、物に執着しゅうじゃくしませんので簡単に済ませることが出来ます。

今、私たちはインターネットなど、様々な多くの情報の社会に生きています。沢山ある情報の恩恵に浴しながらも、誘惑や刺激を受け続け、身の回りは物で溢れています。そんな現代を予言したような一節も『スッタニパータ』にはあります。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

「眼で視ることを貪ってはならない。卑俗ひぞくな話から耳を遠ざけよ。
味に溺れてはならない。世間における何ものをも、
わがものであるとみなして強くとらわれてはならない。」

気が付くとスマートフォンに触れて、画面の中の世界に溺れ、時を忘れてしまいがちな現代人にとって、心すべき教えといえましょう。私たちはインターネットの中で生きているわけではありません。様々な人、自然、環境とのご縁の中に生かされているのです。そのことを、お釈迦様は教えてくれているのです。

— 終 —